

論文内容の要旨

氏名	久保 信代
Effects of an attachment- based parent intervention on mothers of children with autism spectrum disorder: preliminary findings from a non- randomized controlled trial. (和訳) 自閉スペクトラム症児の養育者に対するアタッチメント理論に基づいた親子関係支援：非ランダム化比較研究による予備的知見	

論文内容の要旨

【目的】 社会的コミュニケーションの障害を主症状の一つとする自閉スペクトラム症 (ASD) 児も、養育者に対し安定したアタッチメント形成が可能である。しかし、欲求表現に独特の分かりにくさがあるため、養育者が敏感にそれに気づき、適切に対応することは難しい。米国で開発された「安心感の輪」子育てプログラム (Circle of Security Parenting: COSP) は、養育者を対象とし、子どものアタッチメント欲求への理解と応答性を高める心理教育プログラムである。COSP は元来、定型発達児の養育者を対象としており、先行研究では養育者の育児効力感と心身状態、子どもの問題行動などの改善が報告されているが、ASD 児養育者への有効性検証は始まったばかりであり、本邦での報告例はまだない。本研究では、COSP の ASD 児養育者への効果を調査し、ASD 児へのアタッチメントベースの関係性支援の有効性を検討した。

【方法】 4～12 歳の ASD 児の養育者 60 名を対象者とした。20 名を介入群、40 名を対照群に割り当てた。対照群は子どもの各年齢層の人数構成、男女比、発達・知的水準、通院有無について介入群と近似するよう選抜した。介入群には COSP (8 回、90 分/週) をグループ形式 (4～6 名) で 5 クール実施した。アウトカム指標として、養育者の育児効力感と精神症状の変化を、それぞれ Tool to Measure Parenting Self-Efficacy (TOPSE) と GHQ-30 を用い調査した。子どもの情緒や行動の問題について、CBCL を用いて調査した。調査は質問紙を用い、介入前 (T1) と終了 6 ヶ月後 (T2) に行った。各尺度の下位尺度及び合計得点を共分散分析を行って比較し、有意な主効果があった場合、Bonferroni による多重比較検定を行った。

【結果】 育児効力感、養育者視点から評価した子どもの行動について、いずれも介入群にのみ改善が示された ($p < .05$)。養育者の精神症状については、介入群に改善が示され ($p < .05$)、逆に対照群では悪化が示された ($P < .01$)。

【考察】 COSP は ASD 児養育者の育児効力感と精神健康度を高め、子の行動改善の実感をもたらす効果があると評価できた。結果は ASD 児のアタッチメント欲求に対する養育者の感受性を高める支援の有効性を支持しており、今後の ASD への早期介入に貢献するだろう。